

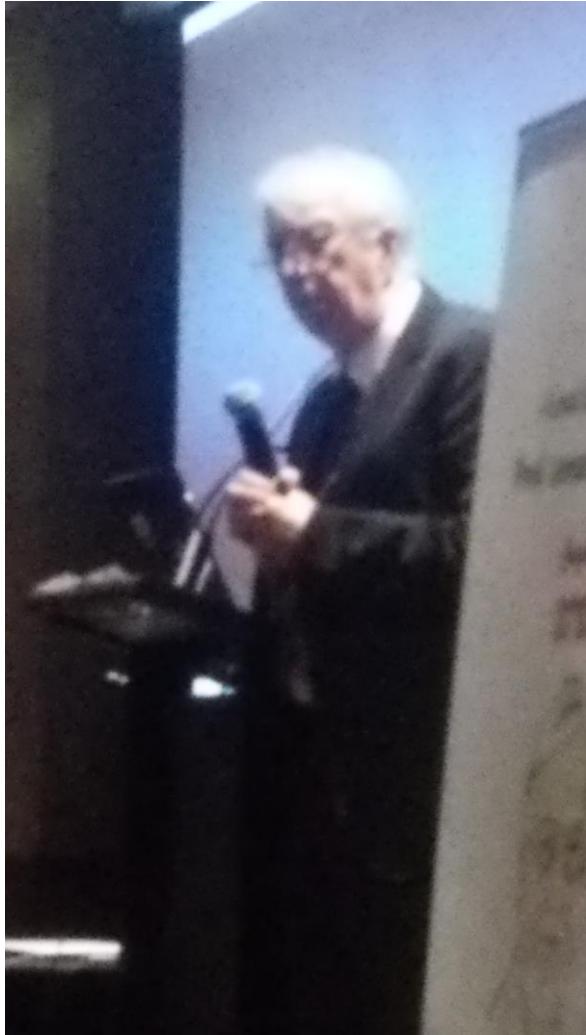
## 第 8 回 International Symposium on Nano & Supramolecular Chemistry (ISNSC-8) 報告

オーストラリアの東海岸にあるブリスベン(Brisbane)で 2016 年 7 月 12 日から 15 日の日程で開催された、ナノ物質と超分子化合物の合成と物性に関する国際会議に参加して参りました。この会議は無機化学の合成の化学者を中心に組織された会議ですが、グラフェン等を初めとするナノ材料に広くターゲットをあて、毎年開催されており、今年は 8 回目になります。会議の意図は、新材料の開発とその物質科学において参加者間の共同研究のネットワークを広げることを目的に企画されています。Queensland 大学の Chengzhong Yu 教授がオーガナイザーとなり、釜山大学の Yang Kim 教授、オーストラリア CSIRO の Gang Wei 教授が Co-Chair として組織されました。会場は Brisbane の中心部にある Murcure ホテルであり、市の中心部にある King George Square 駅近くのビジネス街の交通の便の良いところでした。第 8 回のこの会議は、会議の発案者の一人でもあるシドニー大学の Leonard F. Lindoy 教授の 80 歳の記念シンポジウムとして開催され、オーストラリアを中心に世界各国から合成化学をバックグランドにした超分子、ナノ材料の研究者が集まり、6 件の全体講演、60 件の招待講演、25 件の学生講演と 31 件のポスター発表がありました。中澤は、「Thermodynamics of Novel Spin States in Organic Charge Transfer Complexes with Multiple Quantum Mechanical Freedoms」というタイトルで、分子性化合物のナノ物性と熱力学という立場から招待講演を行いました。会議には、日本人の参加者は全体で約 10 名程度ですが、大阪大学理学部から今野巧教授と吉成信人博士が招待されており、現地でお会いすることになりました。今野先生は Lindoy 先生と非常に懇意にされており、この会議の後もシドニーにも滞在とのことでした。

共同研究を発展することが会議の目的であり、分野の違いを全く意識せず議論できる点が会議の良さだと、オーガナイザーの Kim 先生に招待して頂きましたが、実際に合成関係の多くの方と議論することができました。熱測定を用いて相転移を検出することは、機能性物質開発をやっている人にとっては重要な意義がありますが、単結晶がそれでも微小なことが多い超分子やナノ複合材料等の場合には、より微小量での正確な熱測定手法の開発が求められていることが良くわかります。また、いつも感じることではありますが、熱測定の測定法としてのメリットを明確に示す必要があることを、今回はより強く感じました。

中日の 13 日の夕方に懇親会があり、会議のスポンサーである Queensland 大学の副学長の先生から、基礎研究をいかに応用、製品化にむすびつけて独自色を出してきたかなどの大学での試みの紹介がありました。後半は Lindoy 先生の 80 歳をお祝いするセレモニーがあり、先生の研究室の出身者の方や共同研究者の方々から先生の業績に関するスピーチがありました。南半球ですので、当然冬の気候で、道行く人はジャンバーやコートをはおり、太陽が 15:00 をまわると傾いてくるのが、暑い大阪からいくと大きな違いでした。最終日に船にのって遊覧する企画があったのですが、日本で用事があるため 1 日早く帰国しなければならなかつたのが残念です。来年はイタリアのナポリ大学で開催されるとのことです。機会があれば是非、参加したいと思います。

(中澤康浩)



懇親会でお話される Leonard F. Lindoy 教授



ブリズベンの中心街にある会議の会場